

---

※ ページ数や行数は、初版第 12 刷のものです。それ以前の刷とは、最大で 1 ページずれていることがあります。

---

ミスプリントなどを修正するために必要な、加筆・修正・変更点

- p.94, (3.216) 式とその前後

また、 $\mathcal{H}$  の次元は、

$$\begin{aligned}\dim \mathcal{H} &= a, b, \dots, z \text{ の取りうる組み合わせの数} \\ &= (a \text{ のとりうる値の数}) \times (b \text{ のとりうる値の数}) \\ &\quad \times \dots \times (z \text{ のとりうる値の数})\end{aligned}\tag{3.216}$$

となる。

↓

また、 $\mathcal{H}$  の次元は、

$$\dim \mathcal{H} = a, b, \dots, z \text{ の取りうる組み合わせの数}\tag{3.216}$$

となる。例えば、 $a, b, \dots, z$  のそれぞれがとりうる値が互いに独立な場合には、 $\dim \mathcal{H} = (a \text{ のとりうる値の数}) \times (b \text{ のとりうる値の数}) \times \dots \times (z \text{ のとりうる値の数})$  である。

間違っているわけではないが、わかりやすく改良するための加筆・修正・変更点

- p.198, 脚注 5 に以下の文章を挿入する

相対論的な理論では、時間微分に合わせて空間微分も一階微分にする。なお、

以上